

# 長野県社保協ニュース <21-1>

2016年2月9日（火） 長野県社会保障推進協議会

<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

<http://www.n-syaho.com>

E-mail: [naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp](mailto:naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp)

## 2/6（土）長野県社保協第21回総会・講演会開催 安倍政権の社会保障連続改悪をストップさせ、 いのち・暮らしを守る大運動を地域から強めよう！ 一大政治決戦～参議院選挙に大奮闘しよう！



2月6日（土）長野県社保協は、第21回総会及び記念講演会を、長野市の長野市生涯学習センター会議室で開きました。当日は、午前10時30分から総会、午後1時30分から記念講演会が開かれました。

午前の総会では、5地区社保協（長野、松本、諏訪、上伊那、飯伊）・14団体50名が参加しました。総会は、代表委員の小林さん（県医労連・写真）の開会挨拶のあと、湯浅事務局長が活動方針、宮沢事務局次長が決算・予算案の提案・報告、越監事が決算監査報告をしました。討議では、前半で6団体7名から発言があり、後半は地域社保協の活動をどうやって強めていくか、質問も含め4地域から発言がありました。それぞれ発言

者からは、1年間の活動の特徴や悩み、問題点などが出され、本年度の活動への思い・決意も語られました。討議のまとめをした湯浅事務局長は、安倍政権の危険な暴走政治・社会保障連続改悪をストップさせていくため、地域から「いのち・暮らし」を守っていく大運動を展開しよう。そのためにも、団体・地域での学習を重視し、「あきらめず、粘り強く」頑張っていこうの訴えがありました。

議案はすべて拍手で承認され、新年度の活動方針、予算、新役員体制（下記参照）が確認されました。総会は、選出された細尾代表委員（県労連）から「一大政治決戦である参議院選挙勝利のため頑張ろう」との閉会の挨拶があり、終了しました。

昼休憩の後、NPO 法人医療制度研究会副理事長・外科医 本田宏さんを招いての記念講演が開かれました。（別記参考）

### <総会で選出された2016年度役員名簿> 一年間よろしくお願ひします。

代表委員：熊谷嘉隆（民医連）、鈴木信光（保険医協会）、小林吟子（医労連）、細尾俊彦（県労連）、松澤秀紀（年金者組合）、松丸道男（県推協）

事務局長：湯浅健夫（民医連）<選任>

事務局次長：川畑和章（医労連）、宮澤淳司（保険医協会）、竹田憲子（県推協）、佐藤功（民医連）

運営委員：吉田由美子（高教組）、近藤美子（県教組）、竹内哲雄（長商連）、菅田敏夫（県労連）、

大久保益栄（県生連）、高橋夏美（新婦人）、林義美（年金者組合）、林憲治（飯伊地区）、

小野高聰（長野地区）、山崎健志（上伊那地区）、倉科幸平（松本地区）、村田洋一（諏訪地方）

会計監査：磯野紀子（建交労）、北澤 忠（年金者組合） <注\* 下線の方が新任の役員>

## 長野県社保協第21回総会 記念講演会

# 本当の医療・介護崩壊はこれからやってくる

講師：外科医、NPO 法人医療制度研究会副理事長 本田 宏氏

チラシで知り参加した一般市民、信濃町議5名など会場満席の150名参加

長野県社保協は、さる2月6日（土）第21回総会を記念して、公開講演会を開催しました。講演会には「チラシで知った」との一般市民や信濃町から共産党の議員含め5名の議員など会場満席の150名の方が参加しました。

講演会のテーマは、「本当の医療・介護崩壊はこれからやってくる」。講師の本田宏医師（外科医、NPO 法人医療制度研究会副理事長）は、ユーモアたっぷりの口調で、昨年まで在職していた医療現場での体験も交えて、話されました。

本田医師は、どうして医療現場がその深刻さを増しているのか、医師不足など、どこにその原因あるだろうか、医療現場の状況が正確に国民・患者に伝えられているのか、など様々な資料を紹介しながら、鋭く解明しました。その中で中央官僚が作成する資料は、都合の良いところを抽出して断片的・恣意的に作られているものが多いこと、それを自らの努力で検証もせず報道するマスコミの状況についても解明しました。国民はもっと賢くなり、その本質を知る努力が必要であることを強調しました。



その上で、本田氏は、日本の医療や介護現場の状況を、4つの視点から見ることを。①物事の全体像を把握する、②世界との差、グローバルスタンダードの視点からみる、③温故知新、歴史的な検証が必要、④お金の流れを追う事、などを提起。こうした視点からすれば、安倍内閣の暴走政治、社会保障改悪の酷さ、国民犠牲の内容が良くわかる。このままの状態を許しておけば「医療・介護崩壊がもっと加速する」恐れがある、何としても「NO！」声を大きくしたい。



続けて本田氏は、深刻な状態にある日本の医療・介護を再生するには、今の日本の政治の変革がどうしても必要である、そのために国民がもっと賢くなり、医療者と患者を含め国民各階層の「連

帯」が大切で、投票率が20%～50%程度では、政治は良くならない、ことなどを強調。

更に本田氏は、多くの国民の自覚を促し、意識を変え、政治の流れや医療制度を変えたい、こんな思いが強くなり、定年で病院（済生会栗橋病院）を止め、埼玉県知事選挙や戦争法案反対の行動などにも係わり、全国各地で講演活動を行っているとして自己紹介しながら、安倍内閣の危険な暴走政治、医療・介護の連続改悪を止めさせるため、今年の夏の参議院選挙の重要性を強調しました。

参加者からは「ユーモアたっぷりで、わかり易く、楽しく聞けました」「マスコミに流されず、しっかり見つめることが大事だと気がきました」「連帯は重要だ」「元気をもらいました」「明日から明るく活動したい」などの感想が聞かれました。

### 当面する諸行動

2月13日（土）10：00～12：00 「介護事業の改善を求める要請・懇談」

長野市・ホテル信濃路 長野県の担当者に直接訴えましょう！（主催：日本共産党長野県議団）

2月16日（火）10：30～16：30 「中央社保協2015年度全国代表者会議」

東京・文京区 全労連会館2階ホール

2月17日（水）10：30～15：00 長野県社保協第1次国会行動

東京・千代田区 参議院議員会館B109室 集合 各団体から代表を送ろう！